

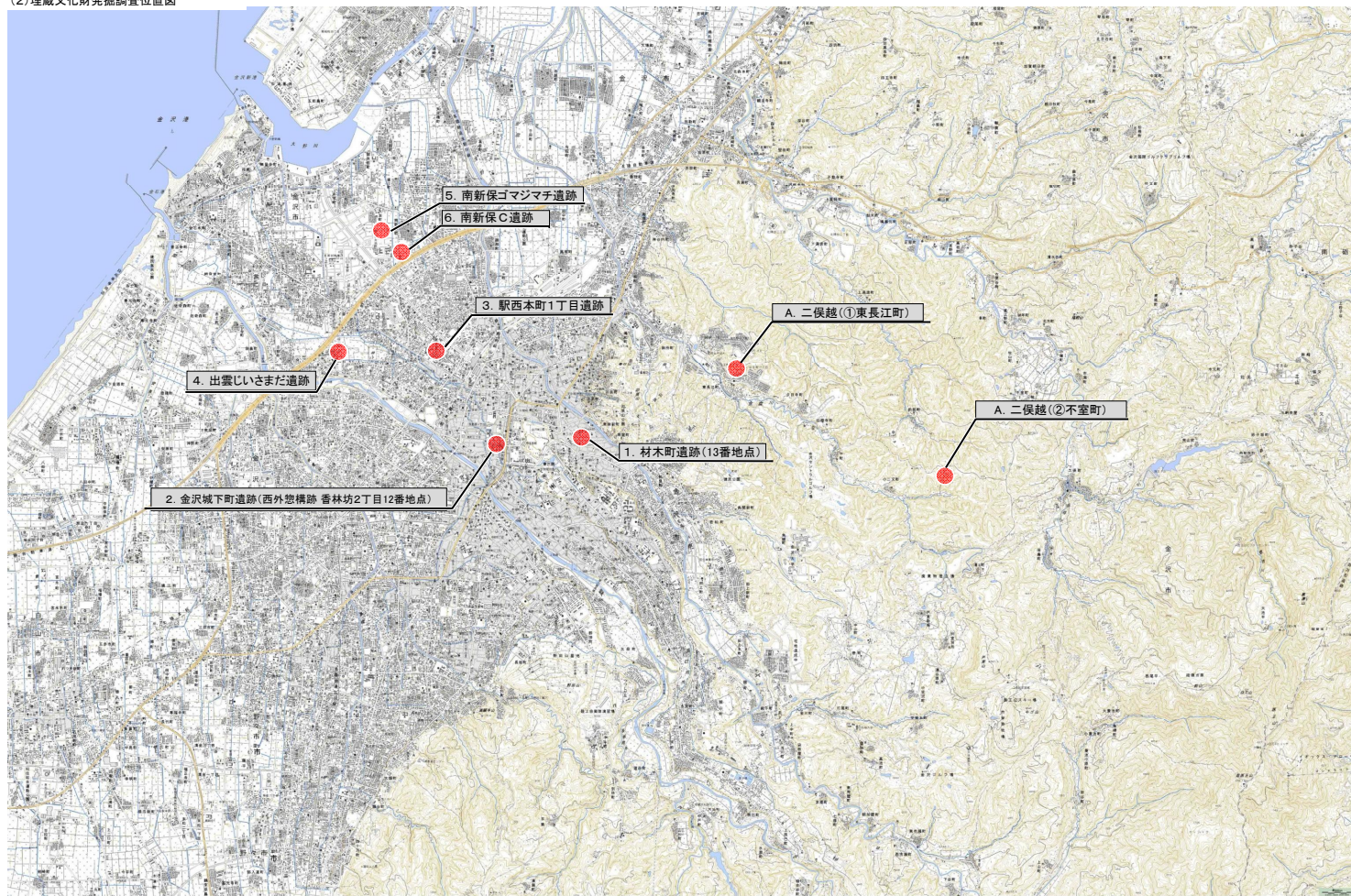
令和 7 年度
金沢市埋蔵文化財調査年報

令和 8 年 3 月
(2 0 2 6 年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

No	調査地	調査面積	調査原因	調査期間	立地	経費(千円)	出土 遺物数	時代	主な遺構	主な遺物
緊急発掘調査										
さいもくちういせき ばんちてん 材木町遺跡 (13番地点)										
1	金沢市 材木町388番地	886㎡×3面	材木小学校跡地 整備事業(公共)	20250804 ～ 20260609	沖積地	26,962	30箱	江戸	道跡、溝、石敷遺構、石組井戸等	近世陶磁器 近世土器 木製品 金属製品 石製品 古銭
かなざわじょうかまち いせき にしそどうがまらあな ごりんぼろ ちようぶ 金沢城下町遺跡 (西外惣構跡 香林坊2丁目12番地点)										
2	金沢市 香林坊2丁目地内	100㎡	ホテル建設 (民間)	20250908 ～ 20251023	沖積地	6,207	1箱	江戸	惣構堀、土坑、溝	近世土器、近世陶磁器、石製品、金属製品
あまのしんぼろ ちようぶ いせき 駅西本町1丁目遺跡										
3	金沢市 駅西本町1丁目地内	395㎡	集合住宅建設	20251001～ 20251219	沖積平野	13,466	15箱	弥生	平地式建物 掘立柱建物 溝 川跡	弥生土器 石製品 木製品
いせき 出雲じいさまた遺跡										
4	金沢市戸板1丁目1	195㎡	学校施設増築	20250929～ 20251007	沖積平野	13,746	2箱	古墳	土坑 ビット 小溝	土師器 石製品 木製品
みなみしんぼろ いせき 南新保ゴマジマチ遺跡										
5	金沢市 大友一丁目地内	8,750㎡ (R6分含む)	区画整理 (民間)	20241011 ～ 20250804	沖積平野	158,090	203箱	弥生・古墳	古墳 掘立柱建物 布堀建物 土坑 溝 ビット	弥生土器 土師器 木製品 石製品 玉製品
みなみしんぼろ いせき 南新保C遺跡										
6	金沢市 南新保町地内	4,600㎡	区画整理 (民間)	20250924 ～ 20260327	沖積平野	102,809	84箱	弥生・古墳	方形周溝墓 平地式建物 土坑 溝 ビット	弥生土器 土師器 木製品 石製品
学 術 調 査										
とんきりてん 二俣越										
A	金沢市 ①東長江町地内 ②不堂町地内	①12㎡ ②14㎡	保存目的 (公共)	20251224 ～ 20260310	丘陵	2,135	-	中世 近世	遺	

(2)埋蔵文化財発掘調査位置図



ざいもくちやういせき ぼんちてん
1. 材木町遺跡 (13番地点)

所在地：金沢市材木町地内

北緯 36° 33' 52"

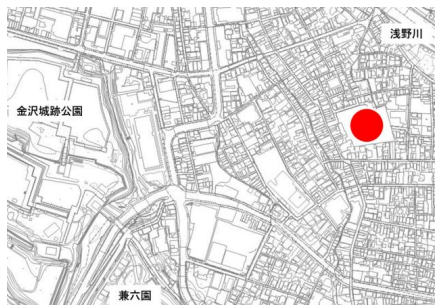
東経 136° 39' 52"

調査面積：886 m²×3 面

種 別：城下町

主な時代：江戸

担 当：新出 主査



■遺跡の概要

材木町遺跡(13 番地点)は、金沢市中心部の材木町にあり、犀川と浅野川により形成された沖積平野のほぼ中央に位置する。調査区周辺は金沢城の南東側で、寛文7年(1667 年)の絵図では当該地には加賀八家の横山氏の分家にあたる、横山外記^{げき}の屋敷、地子町(地子銀^{じしぎん}(土地に対する税)を払う町のことで金沢の町のほとんどは、地子町であった)、横山家下屋敷が描かれている。

旧材木町小学校の跡地整備に伴い発掘調査を実施しており、調査面積は 886 m²を3層確認した。

第1層目は小学校の校舎の基礎等で壊されており、江戸時代後半の遺構面はほぼ残っておらず、わずかに、屋敷内の小道のような道路状遺構や石敷き遺構が残っていた。

第2層目は 17 世紀後半から 18 世紀代の土塀の基礎と考えられる石列を検出した。

第3層目は、17 世紀中頃から 17 世紀後半と考えられる土塀の基礎(石列)や、屋敷境の溝、井戸等を確認した。特に1区で見つかった溝は地子町と下屋敷の境界を流れる人工の溝で、寛文7年(1667 年)の絵図にも描かれている。幅約 120 cm、深さ 15 cmを測る。絵図ではこの溝が南側で直角に折れていて、3区でも確認した。1区では溝の縁に石列がなかったが、3区では溝の縁に石列を配していた。また、3区ではこの溝と並行して道跡も確認した。この道跡の下から石組みの井戸が見つかり、さらに周囲から4基の小規模な石組みの井戸を検出した。絵図に残っていない江戸初期の土地利用の一端が窺える貴重な発見となった。

また、1区ではちょうど横山外記宅と地子町の境目のあたりに段差が確認できた。当時は横山外記宅と地子町では横山外記宅のほうが高い場所に立っていたと考えられる。

今回の発掘調査で絵図に描かれている溝が実際に発見できたことで、絵図の信ぴょう性が高まった。また、同絵図に描かれている横山外記宅と地子町の境目の段差を確認したことにより、当時の地割が元々の地形を利用して造成していたことが判明し、絵図ではわからないことが発掘調査によって判明した。



寛文七年金沢図 (1667年)と調査区合成図 (推定)



井戸（1区 SE01）



土塀の基礎（3区 石列 10）



道跡・溝跡（3区 道 10・SD06）

かなざわじょうかまちいせき にしそとそうがまえあと こうりんぼう ちょうめ ばんちてん
2. 金沢 城下町遺跡（西外惣構跡 香林坊2丁目12番地点）

所在地：金沢市香林坊2丁目地内

北緯 36° 33′ 50″

東経 136° 39′ 09″

調査面積：100 m²

種別：城下町

主な時代：江戸

担当：向井 担当所長補佐



■遺跡の概要

調査地は、香林坊を流れる鞍月用水に接しており、香林坊交差点から北西に約 200m、長町武家屋敷の東側に位置する。江戸時代においては、金沢城から西へ約 500mの位置に所在し、城下町を土居と堀で囲い込んだ防御施設である西外惣構の敷地内に該当する。

調査地が、金沢城惣構が所在した場所であることから、惣構の堀と土居の痕跡、また堀を一部埋めた後の跡地利用の痕跡が見つかることを想定し、調査を実施した。

しかしながら、調査区の大半が、明治時代以降の建築などによる影響を受けていたため、調査の対象としている江戸時代以前の遺構はほとんど残っていないかった。ただし、江戸時代初期に築造された惣構の痕跡が検出された。

惣構とは金沢城下町を囲む堀と土居のことで、金沢城下町には内外2重の惣構が巡っていた。江戸時代を通して、徐々に堀の幅は狭められたが、明治時代に入ってから、さらに大きく狭められ、土居は削られた。その姿は当初と比べて大きく変化した、堀の痕跡は水路として、土居と堀を合わせた惣構の規模は、堀と土居に沿って延びる道路に挟まれた敷地の広さによって、現在も知ることができる。

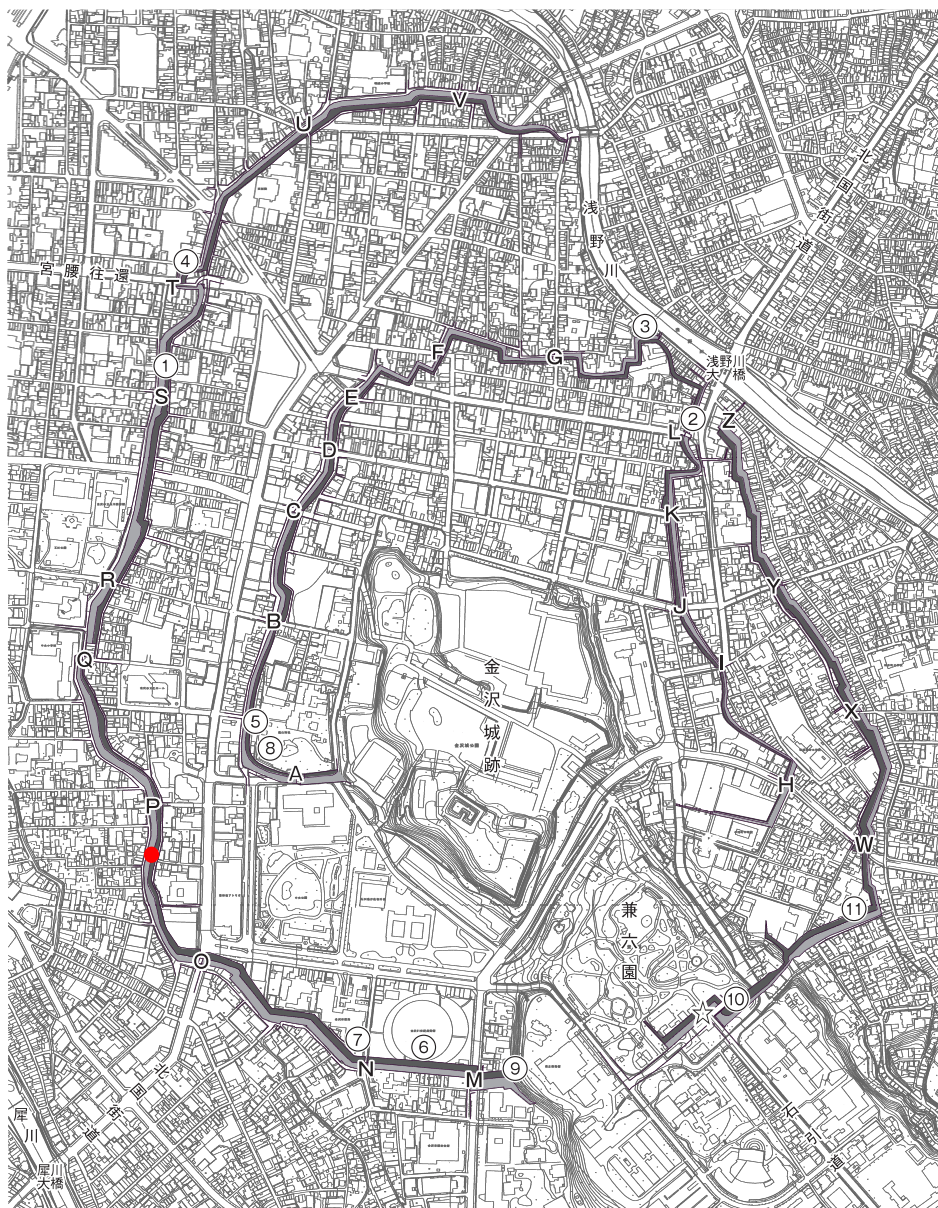
惣構は小立野台地から延びる丘陵の高低差を利用して築造されている。この高低差が大きな場所もあれば、緩やかな場所もある。これまでの発掘調査で、堀と土居双方の規模が確認できた箇所は、高低差が緩やかな場所が多い。今回は、高低差が大きな場所での発掘調査であり、惣構の堀の幅と土居の幅は、当時の絵図には示されてはいるが、それぞれの実寸は不明であった。今回の発掘調査では、堀の法肩が検出されたことで、高低差の大きな場所での堀と土居の規模が、下記のとおり明らかとなった。

- 堀幅（上幅、現存水路を含めた推定値）：約 9.6m

- 土居幅（基底部）：約 9.8m

なお、本調査地から北へ約 900mの箇所で行った武蔵町地点の調査では、築造当初の惣構の堀幅：約 14 m、土居幅：約 6mであった。当該箇所は高低差がほとんどないところで、相対的に堀幅が広いことが確認できる。このような堀幅と土居幅の割合が、高低差が大きなところに適用された場合に、果たして土居の盛土スペースが確保できたのか疑問となっていた。つまり、高低差が大きなところで土居幅が狭いと、堀から惣構に隣接する道までの幅では、堀からの斜面だけが延びることになり、土居の盛土を行う敷地が確保できない可能性が指摘されていた。

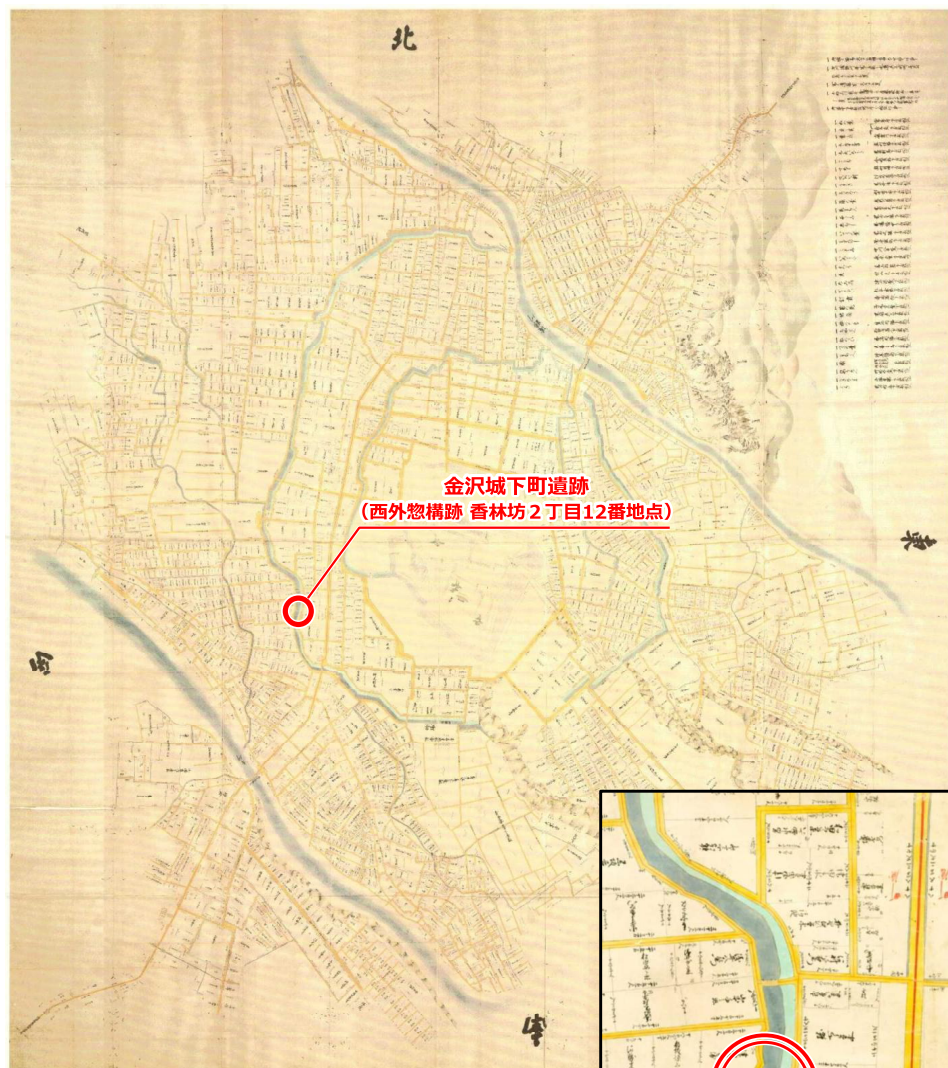
しかしながら、今回の発掘調査によって、堀の幅と土居の幅が明らかになったことで、高低差が大きなところにも十分に土居の盛土をするだけの敷地が確保されていることが確認できた。



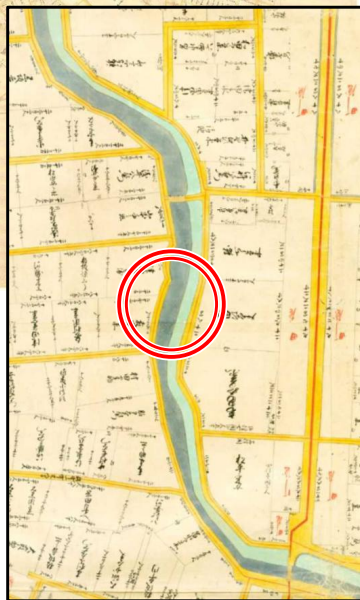
● 金沢城下町遺跡(西外惣構跡 香林坊2丁目12番地点)

- ① 西外惣構跡(武蔵町地点) ② 東内惣構跡(枯木橋北地点) ③ 西内惣構跡(主計町地点) ④ 西外惣構跡(升形地点)
 ⑤ 西内惣構跡(尾山神社西地点) ⑥ 広坂遺跡(土居)・金沢21世紀美術館南側水路(堀) ⑦ 宮内橋詰遺構(土居・堀)
 ⑧ 尾山神社南側(土居) ⑨ 石川県社会福祉会館裏(土居) ⑩ 兼六園山崎山(土居・堀) ⑪ 常福寺裏(土居)
 A* 金谷外柵御門前土橋 B* 不明御門前橋 C 西町橋 D 十間町橋 E 近江町橋 F 袋町橋 G 新町橋 H* (奥村内膳殿) 後惣構土橋
 I 九人橋 J 蔵人橋 K 稲荷橋 L 枯木橋 M 豊屋橋 N 宮内橋 O 香林坊橋 P 右衛門橋 Q* 村井又兵衛殿前橋 R* 長又三郎殿前土橋
 S 図書橋 T 升形橋 U 東末寺橋 V 塩屋町土橋 W 剣崎土橋 X 備中橋 Y 下材木町橋 Z 小島屋町橋 ☆ 山崎山横虎口(仮称)
 註 A～Zの橋名は『金沢惣構図』(文化八年・1811年)及び*を付した橋名は『金沢道橋帳写』(文政七年・1824年)による

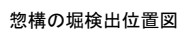
金沢城惣構跡と関連調査の位置 (S=1/10,000)

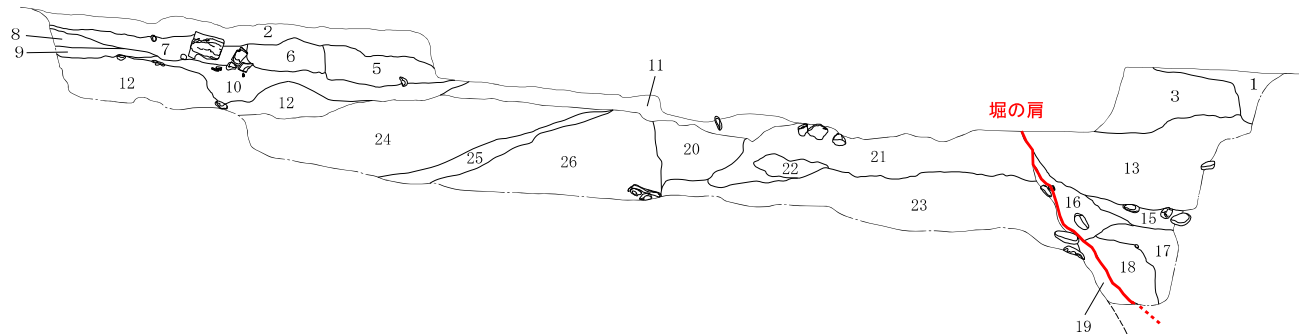


調査位置図（寛文7年金沢図）



2025

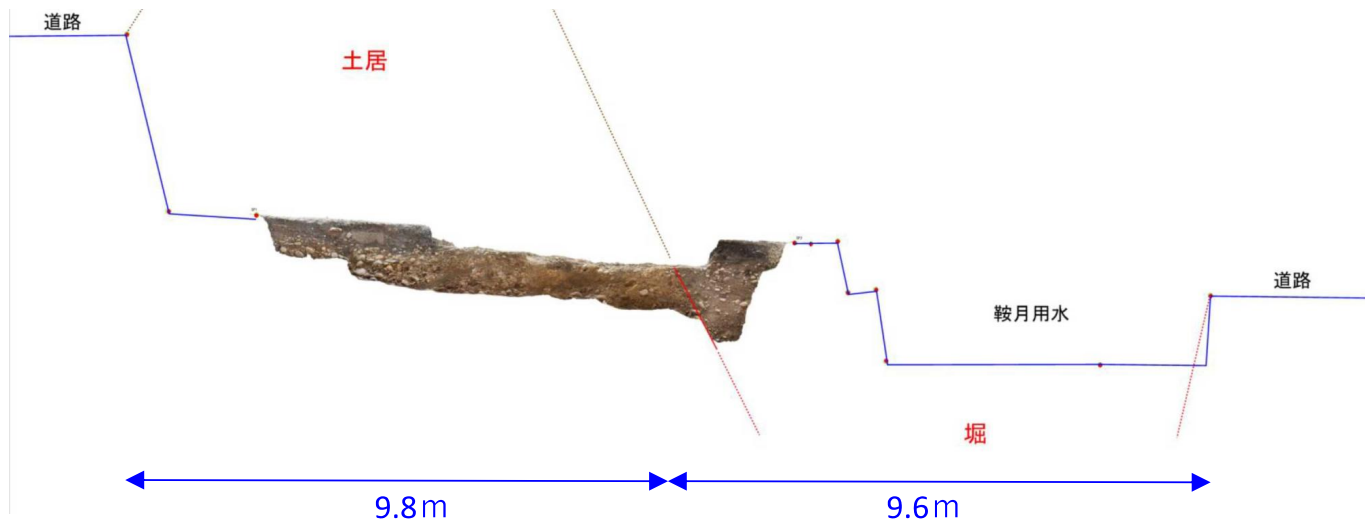




金沢城下町遺跡（西惣構跡香林坊2丁目12番地点）南壁土層断面

- | | | |
|----|-----------|--|
| 1 | 碎石 | 近、現代 |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色砂質土（炭化物 レキφ10～50mm多混） 近、現代 |
| 3 | 2.5Y3/2 | 黒褐色砂質土（炭化物、灰多混、瓦混、レキφ10～50mm混） 近、現代 |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色中粒砂（炭化物、灰多混、レキφ10～20mm多混） 近、現代 |
| 5 | 10YR4/2 | 灰黄褐色砂質土（6層）+2.5Y2/1黒色砂質土（炭化物多混、レキφ10～30mm混） 近、現代 |
| 6 | 10YR4/2 | 灰黄褐色砂質土（炭化物多混） 近、現代 |
| 7 | 2.5Y3/2 | 黒褐色シルト |
| 8 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色砂質土（炭化物、レキφ10～20mm混） 近、現代 |
| 9 | 2.5Y3/2 | 黒褐色砂質土（炭化物、レキφ10～20mm、7層より暗い） 近、現代 |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色シルト（炭化物多混、レキφ10～100mm多混） 近、現代 |
| 11 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色砂質土（レキφ10～100mm多混） 近、現代 |
| 12 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色シルト（炭化物混、レキφ10～200mm多混） 近、現代 |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質土（レキφ10～100mm混、レキφ10～200mm混） 堀埋土か |
| 14 | 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト（炭化物混） 近代整地土？ |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐色シルト（レキφ10～20mm混） 堀埋土？ |
| 16 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色砂質土（レキφ10～50mm混） 岸崩落土か |
| 17 | 10YR3/4 | 暗褐色砂質土（レキφ10～100mm混、レキφ10～100mm混） 堀埋土 |
| 18 | 10YR3.5/4 | 褐色砂質土（レキφ10～50mm混） 岸崩落土か |
| 19 | 10YR4/4 | 褐色砂質土（レキφ10～50mm混） 地山？ |
| 20 | 10YR4/1 | にぶい黄褐色中粒砂（レキφ10～20mm多混） 地山？ |
| 21 | 2.5Y4/6 | オリーブ褐色細粒砂 地山 |
| 22 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色小レキ（レキφ1～10mm） 地山 |
| 23 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色中粒砂（レキφ10～400mm多混） 地山 |
| 24 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色細粒砂（レキφ10～300mm多混） 地山 |
| 25 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色中粒砂 地山 |
| 26 | 10YR4/4 | 褐色細粒砂（レキφ10～100mm多混） 地山 |

惣構の堀検出層位図



惣構の規模推定図



調査区北半 惣構堀検出状況



調査区北半 惣構堀検出状況



調査区北半 惣構堀掘削・法面検出状況



調査区北半 完掘状況



調査区南半 惣構堀法面検出状況



調査区南半 完掘状況